

群響を応援する県民の会の活動

担当者名 会長 小野 善平)

1. 沿革

県議会で群響への補助金の多さが問題となり、昭和61年から補助金は減額されることとなりました。群響の経営難が深刻となってきた中で、昭63年4月、「群響を育てる市民会議」など県内38団体と有志で創る実行委員会（委員長、松浦高崎市長）主催で、全国から駆けつけたオーケストラ楽員を加え総勢120人編成の「翔け群響かんばれコンサート」を開き、群響支援の大きな弾みをつけました。

同年6月、この会が「群響を応援する県民の会」（外山雄一会長）という全権組織へと発展し、今日にいたっています。この会の特徴は、現役の群響楽団員が活動に深く関わっていることです。財政基盤の弱い地区にあっては演奏活動のみでなく、楽団員みずからも積極的に地域とかかわりを持ち支持基盤を拡大しなければならないという熱い使命感が、ベテラン団員から新しい団員にも伝えられ実践する場となっています。

2. 活動状況

現在の主たる活動は、毎月の事務局会議、広報誌「翔け群響」の発行、年末恒例の群響と共催のクリスマスパーティー、および独自行事としての、墨田トリフォニーで開かれる地方都市フェスティバルに参加する群響コンサートの鑑賞バスツアーです。クリスマスパーティーは年々好評で、ホテルの大広間を埋め尽くす300人余の聴衆と、定期演奏会のいかめしい姿をかなぐり捨てた楽団員との交流が和やかに繰り広げられます。30分位のオーケストラ演奏の後、ビュッフェ形式で食事を楽しみながら各セッション毎の趣向を凝らした室内楽演奏を楽しみます。

高関音楽監督がバイオリンを弾く光景も見受けられました。墨田トリフォニーへのバスツアーの参加人員は必ずしも多くありませんが、群響応援ということと、また新しい音楽ホール建設に向けてホールの音響のの大切さを体感してもらうきっかけとなるよう毎年開催しています。その他、地区の活動として安中市およびみなみかみ町（旧月夜野町）で年1・2回の室内楽コンサートを開催し、地域のファンと交流を深めています。